

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 29 年 2 月 16 日 13 時 55 分～15 時 15 分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 20 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例 1)、(例 2)及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。  
 なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

|     |   |   |   |   |
|-----|---|---|---|---|
| 101 | ① | ② | ③ | ④ |
|     |   | ↓ |   |   |
| 101 | ① | ② | ③ | ● |

答案用紙②の場合、

|     |     |
|-----|-----|
| 101 | 101 |
| ①   | ①   |
| ②   | ②   |
| ③   | ③   |
| ④   | ●   |

(例 2)

102 助産師の離職時の届出が定められているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「5」であるから答案用紙の⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

|     |   |   |   |   |   |
|-----|---|---|---|---|---|
| 102 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|     |   |   | ↓ |   |   |
| 102 | ① | ② | ③ | ④ | ● |

答案用紙②の場合、

|     |     |
|-----|-----|
| 102 | 102 |
| ①   | ①   |
| ②   | ②   |
| ③   | → ③ |
| ④   | ④   |
| ⑤   | ●   |

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

|     |   |   |   |   |   |
|-----|---|---|---|---|---|
| 103 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|     |   |   | ↓ |   |   |
| 103 | ● | ② | ③ | ④ | ● |

答案用紙②の場合、

|     |     |
|-----|-----|
| 103 | 103 |
| ①   | ●   |
| ②   | ②   |
| ③   | → ③ |
| ④   | ④   |
| ⑤   | ●   |

(2) 計算問題については、□に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：□① □② %

- |   |   |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ①   | (0) | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) | (●) |
| 104 | (●) | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) | (9) |

答案用紙②の場合、

|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| 104 | ①   | ②   |
|     | (0) | (●) |
|     | (1) | (1) |
|     | (2) | (2) |
|     | (3) | (3) |
|     | (4) | (4) |
|     | (5) | (5) |
|     | (6) | (6) |
|     | (7) | (7) |
|     | (8) | (8) |
|     | (●) | (9) |







1 2011年に改訂されたICM〈国際助産師連盟〉による助産師の定義で示されているのはどれか。

1. 守秘義務
2. 妊娠の合併症の診断
3. 女性と助産師の関係性
4. Traditional Birth Attendant〈TBA〉の指導

2 絨毛膜羊膜炎の産婦から出生した児で上昇している免疫グロブリンはどれか。

1. IgA
2. IgD
3. IgE
4. IgM

3 マーサー, R. T. の母親役割獲得理論において、独自の母親役割を修正したり発達させたりする段階はどれか。

1. 予期的段階
2. 形式的役割取り込み段階
3. 非形式的役割形成段階
4. 個人的アイデンティティの形成段階

4 Aさん(30歳、2回経産婦)。28歳のとき、子宮鏡下手術によって子宮粘膜下筋腫を切除した。妊娠40週6日で予定日超過のため入院し、翌日6時から子宮収縮薬の点滴静脈内注射による分娩誘発を開始し、9時に陣痛が発来した。14時の内診では子宮口全開大、Station +2、破水していた。その直後、Aさんは突然激しい腹痛を訴え、呼吸が速くなった。胎児心拍数陣痛図では変動一過性徐脈が出現し、その後高度徐脈となった。直ちに助産師が内診を行うと児頭を触知できなかった。異常な出血はみられなかった。

このときのAさんの状態で最も考えられるのはどれか。

1. 子宮破裂
2. 膣壁裂傷
3. 羊水塞栓症
4. 常位胎盤早期剝離

5 Aさん(28歳、初産婦)。妊娠39週0日で正常分娩した。産褥2日、母児同室中である。昨日から右乳頭上部に発赤がみられ、授乳時に痛みがある。乳房の形はⅢ型、乳管の開口数は左右とも2、3本である。

助産師が行うケアとして最も適切なのはどれか。

1. 右乳房の授乳は縦抱きで行うよう指導する。
2. 乳房を児の口の中に押し込むようにする。
3. 授乳時の児の吸着状態を確認する。
4. 痛みがある間は右乳房の授乳は中止するよう説明する。

6 自分の性別を認識できるようになる年齢はどれか。

1. 1歳ころ
2. 3歳ころ
3. 5歳ころ
4. 7歳ころ

7 Aさん(33歳、初産婦、会社員)。結婚後3年で妊娠。パートナーと2人暮らしで、勤務歴は10年。妊娠28週0日、妊婦健康診査のため受診し、経過は順調であった。診察後に、Aさんは助産師に「職場では妊娠を経験した人がいないので気持ちを分かってもらえない。妊娠は初めてのことなので、少しおなかが張ったりするとすぐ不安になってしまう。パートナーは妊娠を喜んでいるので、体調が悪いときも心配させないように明るく振る舞うようにしている。1人でいると落ち込んで涙が出ることもある」と訴えた。

Aさんの訴えを受け止めた後の助産師の対応として最も適切なのはどれか。

1. 「この時期の不安はよくあることです」
2. 「パートナーに不安な気持ちを話してみましょう」
3. 「体調が悪いときは、遠慮せずに仕事を休みましょう」
4. 「妊娠の経過は順調なので、気にせずに頑張りましょう」

8 30歳の初産婦。妊娠41週で体重3,800gの男児を経膣分娩で出産した。8年前に統合失調症と診断され、精神科に通院し向精神薬を内服している。羊水混濁+、Apgar〈アプガー〉スコアは1分後6点、5分後8点であった。生後1日、児は啼泣時に下顎と両側上肢の震えがみられる。安静時の体温37.0℃、呼吸数40/分、心拍数200/分、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉98%。呻吟や努力性呼吸はない。血糖値は60mg/dLであった。

このときの児の全身状態に直接関連しているのはどれか。

1. 血糖値
2. 羊水混濁
3. 向精神薬からの離脱
4. 1分後のApgar〈アプガー〉スコア

- 9 新生児および乳児のビタミン K 欠乏性出血症の予防について適切なのはどれか。
1. ビタミン K<sub>2</sub> シロップは 5 % ブドウ糖液で希釈して投与する。
  2. 母乳栄養児では母親にビタミン K が豊富な食事摂取を勧める。
  3. 1 か月児健康診査時に 2 回目のビタミン K<sub>2</sub> シロップを投与する。
  4. 人工栄養児では 3 か月までビタミン K<sub>2</sub> シロップを投与する必要がある。

10 A さん(33 歳、初産婦)は、妊娠 39 週 4 日に体重 3,380 g の男児を正常分娩した。妊娠 32 週に妊娠糖尿病と診断され、インスリン治療を受けていた。出生 2 時間後に児は呼吸数 80/分、心拍数 160/分、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉88 %、血糖値 24 mg/dL であった。児は NICU に入院し、保育器内で酸素投与とブドウ糖液の点滴静脈内注射が開始された。出生 3 時間後に児は呼吸数 80/分、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉93 % (保育器内酸素濃度 40 %)、血糖値は 80 mg/dL となった。このとき、A さんは初めて NICU を訪れた。

NICU の助産師が A さんへ最初に行う対応で適切なのはどれか。

1. 児を抱っこするよう促す。
2. 人工乳の与え方を指導する。
3. 保育器内で児にタッチングするよう促す。
4. 感染予防対策として児への面会は最小限とするよう説明する。

11 出生時と1か月児健康診査時の児の身体計測値を表に示す。

|        | 出生時   | 1か月児健康診査時 |
|--------|-------|-----------|
| 体重(g)  | 3,280 | 4,180     |
| 身長(cm) | 49.5  | 54.0      |
| 頭囲(cm) | 33.0  | 39.0      |
| 胸囲(cm) | 32.0  | 35.5      |

1か月児健康診査時の身体計測値のうち、精査を必要とするのはどれか。

1. 体 重
2. 身 長
3. 頭 囲
4. 胸 囲

12 日本の平成26年(2014年)の出生に関する統計で正しいのはどれか。

1. 純再生産率は1.2である。
2. 出生数は約120万人である。
3. 沖縄県の合計特殊出生率は低率である。
4. 30～49歳における合計特殊出生率は過去10年間は上昇傾向である。

13 次世代育成支援対策推進法について正しいのはどれか。

1. 妊産婦に対してマタニティマークの携帯を推進する。
2. 急速な少子化の進行を踏まえて策定された法律である。
3. 次世代育成支援対策は3年ごとに取り組みを評価する。
4. 常時雇用の従業員が50人以上の企業は行動計画の策定が義務付けられている。

- 14 助産外来の運営についてPDCAサイクルのAに該当するのはどれか。
1. 運営方法を決める。
  2. 実施状況を調査する。
  3. 計画に従って運営する。
  4. 評価結果を参考に運営方法を変更する。
- 15 Aさん(28歳、女性)は妊娠初期の血液検査で早期の梅毒と診断された。  
このときのAさんへの梅毒に関する説明で正しいのはどれか。
1. 「パートナーは検査の必要がありません」
  2. 「テトラサイクリン系抗菌薬で治療を開始します」
  3. 「胎児への感染を防止することはできません」
  4. 「分娩後に血液検査で赤ちゃんの先天感染の有無を確認します」
  5. 「治療が終了しても母乳は与えられません」
- 16 胎児の器官形成と機能的発育に関して正しいのはどれか。
1. 心血管系の基本的な形態は妊娠8週までに完成する。
  2. 中枢神経系の奇形感受性は妊娠10週が最大である。
  3. 胎児の尿産生は妊娠20週ころから始まる。
  4. 呼吸様運動は妊娠25週ころから始まる。
  5. 羊水の嚥下運動は妊娠30週ころから始まる。

17 在胎 39 週 5 日、体重 3,200 g で吸引分娩によって出生した女児。生後 30 日に 1 か月児健康診査のため来院した。完全母乳栄養で、体重は 4,000 g。母親は児の頭血腫と黄疸が消失しないことを心配している。頭血腫は出生直後より小さくなったが、現在も触知できる。便色は黄土色で、時々便に血液が混入するという。排便は 10 回/日で、肛門周囲の皮膚に発赤と一部びらんがみられる。

この児にみられた所見のうち、直ちに精査を必要とするのはどれか。

1. 便 色
2. 黄疸の遷延
3. 体重増加率
4. 頭血腫の残存
5. 便への血液混入

18 正期産の分娩進行中に、間欠的胎児心拍数聴取で異常がない場合でも、児の娩出まで胎児心拍数陣痛図による連続的モニタリングを行うことが必要なのはどれか。

1. 若年の産婦
2. 前期破水後
3. 低身長産婦
4. 妊娠高血圧症候群
5. 胎児推定体重 3,800 g

19 緊急避妊を目的としたレボノルゲストレルの内服に関する指導内容として適切なものはどれか。

1. 3.0 mg を 2 回内服する。
2. 妊娠阻止率は 99 % 以上である。
3. 内服後 7 日間は他の避妊手段は必要ない。
4. 性交後 72 時間以内であればいつ内服しても効果は変わらない。
5. 次回の月経の経血量が通常より少なかった場合は妊娠検査を受ける。

20 37歳の初妊婦。妊娠28週4日、妊婦健康診査で来院した。1日に数回の子宮収縮の自覚がある。既往歴および家族歴に特記すべきことはない。血圧128/78 mmHg。尿蛋白(-)、尿糖+。血液検査データは、Hb 11.5 g/dL、Ht 36%。75 g OGTTで空腹時血糖90 mg/dL、1時間値172 mg/dL、2時間値160 mg/dLであった。子宮底長25 cm。子宮口は閉鎖、子宮頸管長32 mm。児は骨盤位で胎児推定体重1,020 g。

このときのアセスメントで適切なのはどれか。

1. 正常経過
2. 切迫早産
3. 妊娠糖尿病
4. 妊娠性貧血
5. 胎児発育不全(FGR)

21 Aさん(29歳、2回経産婦)。妊娠38週4日、午前5時に自宅で少量の褐色帯下がみられたため、かかりつけの産科病院に電話連絡をした。Aさんは、15分に1回の不規則で弱い子宮収縮を感じており、胎児はよく動いていること、2日前の妊婦健康診査では子宮口が2 cm開大していると言われたこと、前回の分娩では陣痛発来から分娩まで4時間であったことを助産師に伝えた。これまでの出産はいずれも正常分娩であった。

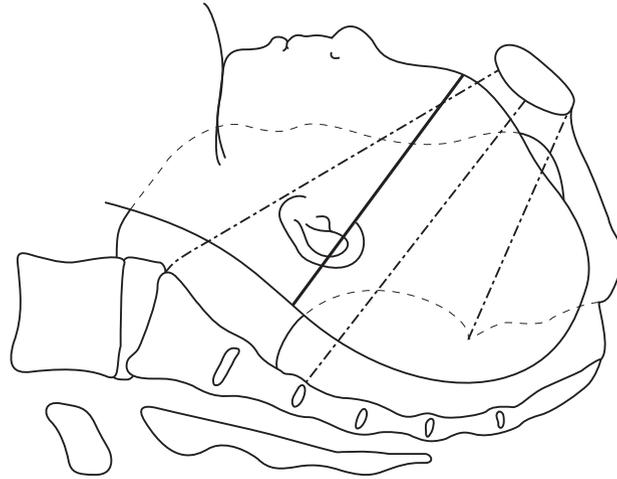
来院の必要性を判断するために最も重要な情報はどれか。

1. 胎児の推定体重
2. 第2子の出生体重
3. 病院までの所要時間
4. 妊娠中の体重増加量
5. 次の妊婦健康診査の予約日

22 正期産において、陣痛発来前に経産婦よりも初産婦で生じやすいのはどれか。

1. 外子宮口の開大
2. 外陰部の静脈瘤
3. 子宮頸部の軟化
4. 子宮頸管の展退
5. 腹直筋の離開

23 回旋異常(前方前頭位)が生じている児頭および骨盤の状態を図に示す。先進部は Station +4 である。



骨盤内における児頭の最大周囲径の高さはどれか。

1. 高 在
2. 高中在
3. 低中在
4. 低 在
5. 出口部

24 Aさん(38歳、1回経産婦)は、陣痛発来後2時間で体重3,650gの女児を経膣分娩した。分娩時の出血量は650mLであった。分娩直後に産道裂傷は認めなかった。Aさんは分娩30分後から下腹部痛の増強を訴えた。出血は少量。子宮底は腹壁から硬く触れ、内診を行うと膣壁の左側に圧痛を伴う8cm程度の緊満した腫瘤を触れた。内診後からAさんは気分不快を訴えた。体温36.3℃、脈拍150/分、血圧75/45mmHg。四肢に冷感が認められる。

Aさんの状態のアセスメントとして最も考えられるのはどれか。

1. 弛緩出血
2. 胎盤遺残
3. 膣壁血腫
4. 子宮内反症
5. 羊水塞栓症

25 Aさんは正常分娩後順調に経過し、退院3週後に母乳外来を訪れた。「急に寒気がして、熱を測ったら38.9℃でした。左の乳房が触るだけで痛くて、赤ちゃんも嫌がって飲みません」と話した。左乳房の外側上部に硬結があり、発赤がみられた。どろっとした乳汁が少量分泌された。

Aさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 「授乳は中止しましょう」
2. 「抗菌薬が必要となります」
3. 「市販の解熱薬を内服してください」
4. 「乳房のしこりの部分を温めましょう」
5. 「しこりがなくなるまで搾乳してください」

26 40歳の1回経産婦。切迫早産の治療のため妊娠34週0日から入院して安静加療し、妊娠37週0日に骨盤位のため帝王切開術で分娩した。分娩時出血量は羊水を含めて1,000 mLであった。術後1日の昼食後に軽い呼吸困難と多呼吸とを訴え、ペーパーバッグを口と鼻に当てたところ、すぐに消失した。術後2日の朝にベッドから降りて立ったとき、突然、胸痛と息苦しさを訴え意識を失った。既往歴および家族歴に特記すべきことはない。

最も疑われるのはどれか。

1. 貧血
2. 肺塞栓症
3. 心筋梗塞
4. 過換気症候群
5. 起立性低血圧

27 生後2日の女児。在胎37週2日、体重2,800 gで出生。この日の体重は2,600 g。体温37.0℃、呼吸数48/分。排尿は8回/日、排便は2回/日。皮膚に黄染がみられ、血清総ビリルビンは16.0 mg/dLであった。授乳間隔は3、4時間ごとで、母乳の後に人工乳を1回20 mL補足している。

この児のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 多呼吸である。
2. 哺乳量不足である。
3. 排泄回数が少ない。
4. 高ビリルビン血症である。
5. 体重減少率は生理的範囲を逸脱している。

28 Aさん(30歳、初妊婦)。夫と義母の3人暮らし。妊娠38週で子宮内胎児死亡となり、帝王切開術を受けた。手術後8日で退院する予定である。Aさんの実母から「赤ちゃんの父親は海外出張中で帰って来ることができません。死産届は誰が出したらよいでしょうか」と助産師に相談があった。

届出者として最も適切なのはどれか。

1. 義母
2. Aさん
3. Aさんの実母
4. 死産に立ち会った医師
5. 死産に立ち会った助産師

29 助産業務に関連する法律と内容の組合せで正しいのはどれか。

1. 刑法 ————— 医行為の禁止
2. 医療法 ————— 助産録の記載
3. 児童福祉法 ————— 守秘義務
4. 母体保護法 ————— 母性健康管理指導事項連絡カードの発行
5. 保健師助産師看護師法 ————— 異常妊婦に対する臨時応急の手当

30 Aさん(36歳、初産婦)。妊娠41週0日、胎児下降不良のため鉗子分娩となった。児の健康状態に問題はなかったが、側頭から前額にかけてうっすらと鉗子の圧痕がついていた。Aさんは主治医から、児の圧痕は徐々に薄くなると説明され「安心しました」と答えた。Aさんの夫は仕事で分娩に立ち会えず、分娩2時間後の16時に来院した。状況を知った夫はナースステーションに来て「詳しく話が聞きたい。顔に痕が残らないと聞いたが、もし残ったらどうするのか」と声を荒げて話した。

助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 「主治医から説明いたします」
2. 「とにかく落ち着いてください」
3. 「分娩の管理は問題ありませんでした」
4. 「Aさんは状況について納得されています」
5. 「生後1か月ころまでに消えるので心配ありません」

31 卵胞期と比較して、排卵期の頸管粘液の変化で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. pHは酸性を呈す。
2. 牽糸性は低下する。
3. 粘稠度は低下する。
4. 分泌量は減少する。
5. 透明度が増加する。

32 正常に経過している妊婦の妊娠中期において、非妊娠時よりも血中の値が増加しているのはどれか。2つ選べ。

1. 遊離サイロキシン<FT4>
2. 黄体形成ホルモン<LH>
3. インスリン
4. 空腹時血糖
5. 食後血糖

33 前方後頭位分娩における児頭の応形機能で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 児頭の大斜径が延長する。
2. 分娩所要時間は影響しない。
3. 後頭骨は両頭頂骨の下に入る。
4. 頭頂骨は前在側が後在側の下になる。
5. 児頭の変形が回復するには生後10日を要する。

34 院内助産で体重3,500gの児を正常分娩した初産婦。分娩第3期までの出血量は550mL。胎盤娩出直後から出血が続き、5分間で出血量は100mLであった。脈拍90/分、血圧100/70mmHg。子宮底の高さは臍上2横指で軟らかく、弛緩出血と判断し子宮底の輪状マッサージを行い、医師に診察を依頼した。

この状況で助産師が行う対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 血管確保
2. 輸血の準備
3. 子宮双手圧迫法
4. 子宮収縮薬の局所投与
5. 子宮・膣強圧タンポン挿入法

35 健やか親子 21(第2次)の学童期・思春期から成人期に向けた保健対策の指標で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 飲酒率
2. 自殺死亡率
3. うつ病の発症率
4. 不慮の事故による死亡率
5. 性感染症〈STD〉の罹患率

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

A さん(19 歳)。半年で 7 kg の体重増加があり、4 か月間月経がなかったため、婦人科外来を受診した。「友人関係のストレスで甘いものばかり食べ過ぎてしまったと思う。最近、にきびが増えて気になる。体調はそんなに悪くはない」と言う。既往歴に特記すべきことはない。初経は 12 歳で月経周期は 30 日型であった。性交経験はない。身長 157 cm、体重 70 kg。脈拍 74/分、血圧 120/70 mmHg。

36 診察の結果、乳房、陰毛の発育は正常。経腹超音波検査で、両側卵巣は軽度腫大しており、片側 10 個以上の小さい卵胞を認める。

A さんの血中ホルモン値として予想されるのはどれか。2 つ選べ。

1. プロラクチン高値
2. テストステロン高値
3. 黄体形成ホルモン(LH)高値
4. 卵胞刺激ホルモン(FSH)高値
5. エストラジオールが測定感度以下の低値

37 体重の減量指導が開始された。A さんは、現在は妊娠の希望はなく、避妊の必要もないという。無月経であることを心配しており、定期的に月経が来るような薬物治療を希望している。家族歴を聴取したところ、実父と叔父に血栓症の既往があり、叔父は外科手術後の肺塞栓症で死亡しているとのことであった。

最も適切な治療法はどれか。

1. 黄体ホルモン薬の内服
2. GnRH アゴニストの注射
3. 抗テストステロン薬の内服
4. 選択的エストロゲン受容体修飾薬の内服
5. 低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬の内服

38 その後 Aさんは22歳で結婚し、現在は妊娠を希望している。体重はこの3年間に少しずつ減少し55 kgとなっているが、現在でも自然には月経が来ないという。高血圧症や糖尿病はみられない。

Aさんへの第一選択の治療法はどれか。

1. 5 kgの減量指導
2. メトホルミンの内服
3. ゴナドトロピンの注射
4. Kaufmann〈カウフマン〉療法
5. クロミフェンクエン酸塩の内服

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

A 病院の産科病棟は院内助産を行っており、分娩が終了するまで家族も産婦と個室で過ごせるようにしている。院内助産で分娩し、退院7日後に母乳外来を訪れたBさんから、夫が麻疹と診断されたとの情報を得た。夫は退院日の2日前から咳および鼻汁の症状がみられ、退院日の夜から38.0℃の発熱があった。退院後2日目から発疹が出現した。Bさんの夫の来院状況は以下のとおりであった。

- |      |                        |
|------|------------------------|
| 3月3日 | 39週0日、陣痛発来による入院に夫が付き添う |
| 4日   | 分娩に夫が立ち会う              |
| 5日以降 | 退院まで毎日来院               |
| 9日   | 退院の迎えで来院               |

39 Bさんの夫が原因で他の人に感染する可能性があった期間で最も適切なのはどれか。

1. 3月3日～3月9日
2. 3月4日～3月9日
3. 3月7日～3月9日
4. 3月9日

40 3月16日、Bさんから情報を聞き、産科病棟での感染管理を行うため、麻疹症状のある者を確認したところ発症者はいなかった。患者およびスタッフの接触者のうち、予防接種歴が確認できなかった者は、現在も入院治療中の切迫早産の妊婦2人とスタッフ2人であった。

病棟内で感染を拡大させないための対応として適切なのはどれか。

1. 切迫早産の妊婦2人に麻疹の予防接種を行う。
2. 切迫早産の妊婦2人にγ-グロブリンを投与する。
3. 予防接種歴が確認できなかった接触者の麻疹の抗体価を調べる。
4. 予防接種歴が確認できなかったスタッフは直ちに出勤停止とする。

41 3月26日、産科病棟では新たな感染者は認められていない。

今後の感染予防対策として最も適切なのはどれか。

1. 病棟内での家族の面会を中止する。
2. 周産期の感染予防策の研修を定期的に行う。
3. 産科病棟に入院する者の予防接種歴を確認する。
4. 今後3週間、患者およびスタッフの症状の観察を行う。

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

A さん(38 歳、初産婦)。妊娠 39 週 4 日に規則的な陣痛を自覚して、かかりつけの産婦人科病院に来院し、14 時に入院した。これまでの妊娠経過は順調であった。

**既往歴** : 緑内障に対して点眼治療を継続中。

**生活歴** : 妊娠前から喫煙、妊娠中 3 本/日。

**家族歴** : 実母が高血圧症。

**身体所見** : 身長 155 cm、入院時体重 62 kg(非妊時体重 53 kg)。体温 36.7℃、  
血圧 120/77 mmHg。陣痛間欠 4 分、陣痛発作 50 秒、陣痛発作時は会話が困難な  
程度の痛みを感じている。胎児心拍数陣痛図は正常である。子宮口 4 cm 開大、展  
退度 50%、Station -1、未破水。

42 硬膜外麻酔による陣痛の疼痛緩和を予定していたため、硬膜外麻酔カテーテルが挿入され、局所麻酔薬の注入が開始された。麻酔開始 1 時間後、子宮収縮時にわずかな痛みを感じる程度の疼痛コントロールの状態となった。両下肢の運動に問題はないが軽度のしびれを感じていた。定期的に尿道カテーテル挿入による導尿が行われた。

A さんの麻酔施行中の副作用(有害事象)に関係した観察項目で最も重要なのはどれか。

1. 食事量
2. 血 圧
3. 体 温
4. 浮 腫
5. 胎 向

43 16時に自然破水した。18時の内診所見は子宮口6 cm開大、展退度70%、Station +1で、破水後から所見の変化を認めていない。助産師は続発性微弱陣痛と判断して医師に報告し、子宮収縮薬の点滴静脈内注射を開始することとなった。

Aさんに投与する子宮収縮薬の種類を選択するために重要な情報はどれか。

1. 喫煙状況
2. 緑内障の合併
3. 胎児推定体重
4. 妊娠中の体重増加
5. 実母の高血圧症の有無

44 子宮収縮薬の投与開始後に陣痛が増強して、20時に子宮口8 cm開大、Station +2となった。23時に子宮口全開大、Station +4まで下降したが娩出には至っていない。胎児心拍数陣痛図では胎児心拍の異常はない。Aさんは陣痛発作時に子宮収縮の自覚はあるが硬膜外麻酔によって痛みは緩和されている。分娩までの時間がかかっていることについてAさんは心配している。

児の娩出までの時間を短縮する目的でAさんに提案する内容として正しいのはどれか。

1. 子宮収縮に合わせた努責
2. 麻酔量の増加
3. 室内の歩行
4. 飲 水
5. 浣 腸

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

Aさん(37歳、初産婦)は、妊娠41週3日、予定日超過のため子宮収縮薬を使用し、  
ての分娩誘発が開始された。無痛分娩を希望し、硬膜外麻酔による疼痛緩和が開始さ  
れた。分娩第1期15時間、分娩第2期5時間、分娩遷延のため会陰切開し、吸引分  
娩となった。児は体重3,280g、Apgar〈アプガー〉スコアは1分後7点、5分後9点  
であった。出血量は550mL、分娩第4期の経過は正常。バイタルサインは問題なく、  
硬膜外カテーテルを抜去し帰室した。

45 産褥1日。分娩後から尿意がなく、自然排尿できない状態が続いており、導尿で  
300～400mL/回を採取している。会陰の創部痛は鎮痛薬でコントロールしている。

この時点でのアセスメントで最も適切なのはどれか。

1. 脱水状態による尿量減少
2. 分娩第2期遷延による尿閉
3. 硬膜外麻酔による膀胱筋の麻痺
4. 創部痛による膀胱括約筋のけいれん

46 産褥3日に尿意が出現し自然排尿できるようになった。母児同室中であるが夜間は休息のため、新生児室に児を預けることがある。1日の直接授乳回数は、6、7回程度である。「おっぱいが張って痛い。赤ちゃんも泣いてばかりでどうしてよいか分からない」と疲労した様子で訴えた。体温37.4℃、子宮底の高さは臍下3横指、血性悪露中等量。乳房全体が緊満し乳輪部はむくんでいる。両乳頭に発赤があり、乳管の開口数は左右とも2、3本、分泌は乳汁がにじむ程度である。

Aさんの状態のアセスメントで考えられるのはどれか。

1. 産褥熱
2. 産褥精神病
3. 乳房うっ積
4. 化膿性乳腺炎

47 産褥5日の退院時、Aさんは「無痛分娩は産後の体が楽だと聞いていたが、疲れがとれません。まだ授乳に慣れてないので心配です」と不安そうな表情で話した。夫の育児休業は1週間の予定であるという。助産師は訴えをしばらく傾聴した。両乳房緊満+、乳管の開口数は左右とも5、6本で射乳あり。日中の授乳は母乳のみで夜間は人工乳を補足している。

退院に向けての説明で最も適切なのはどれか。

1. 「睡眠薬を処方してもらいましょう」
2. 「母乳外来で授乳について相談しましょう」
3. 「Aさんだけ先に退院して体を休めましょう」
4. 「産後ケアを受けられる施設に入所しましょう」

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

A さん(25 歳、初妊婦)。夫と義父母の 4 人暮らし。市販の妊娠検査薬で陽性反応が出たため 2 週前に産科外来を受診したが、胎児心拍は確認できなかった。本日、再度受診し胎児心拍が確認され、妊娠 7 週であると判明した。最終月経は 3 月 10 日から 5 日間あった。

48 Naegle〈ネーゲレ〉概算法による A さんの分娩予定日を求めよ。

解答：   月   日

| ① | ② | ③ | ④ |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 1 | 1 |
|   | 2 | 2 | 2 |
|   | 3 | 3 | 3 |
|   | 4 |   | 4 |
|   | 5 |   | 5 |
|   | 6 |   | 6 |
|   | 7 |   | 7 |
|   | 8 |   | 8 |
|   | 9 |   | 9 |

49 Aさんは「22時くらいには布団に入って寝ます。疲れが取れていないようで、いつも眠いです。朝は7時に起きます」と状況を訴えた。

Aさんの睡眠のアセスメントとして正しいのはどれか。

1. レム睡眠が増加している。
2. 睡眠時間が不足している。
3. オキシトシンの影響である。
4. プロラクチンの影響である。

50 妊娠28週の妊婦健康診査時、Aさんは「実家の近くの病院で分娩をする予定です。自宅から実家まで高速道路を使って3時間くらいかかります。夫の運転する車で里帰りするときには注意することがありますか」と助産師へ質問した。

助産師の説明で適切なのはどれか。

1. 「車内では水分摂取を控えましょう」
2. 「移動は妊娠37週以降にしましょう」
3. 「ドライブインでは出歩かないようにしましょう」
4. 「後部座席の場合はシートベルトをしなくてよいです」
5. 「腰のシートベルトは恥骨上を通るように装着しましょう」

次の文を読み 51、52 の問いに答えよ。

29歳の1回経産婦。妊娠41週0日、予定日超過で入院した。これまでの妊娠経過は母児ともに順調であった。

**既往歴** : 前回は妊娠38週で体重3,280gの児を正常分娩した。

**身体所見** : 身長160cm、体重65kg。体温36.5℃、脈拍72/分、整、血圧110/78mmHg。子宮口4cm開大、展退度80%以上、Station-1、子宮頸管の硬度は軟、子宮口の位置は前方、未破水。胎児推定体重は3,030gで形態異常はない。胎位は頭位、胎児心拍数は130bpm。陣痛発来はしていない。

**検査所見** : 尿蛋白(-)、尿糖(-)。

51 オキシトシン点滴静脈内注射による分娩誘発を開始することとなった。

分娩誘発時の管理で適切なのはどれか。

1. 投与開始前に頸管拡張を行う。
2. 2日間連続での投与は行わない。
3. 手動による滴下量の調整を行う。
4. 投与開始後は分娩終了まで絶飲食とする。
5. 開始時の投与速度は1～2ミリ単位/分とする。

52 妊娠 41 週 1 日、分娩誘発を行ったが、有効な陣痛は発来しなかった。41 週 2 日の 6 時ころから自然に陣痛が発来した。10 時、子宮口全開大、Station +3 で自然破水した。14 時、陣痛間欠 3 分、陣痛発作 45 秒。内診所見は、矢状縫合が横径に一致し、Station +4。体温 36.6℃、脈拍 88/分、整、血圧 114/76 mmHg。胎児心拍数陣痛図で、基線細変動は正常で、胎児心拍数 150 bpm、時折、軽度の変動一過性徐脈がみられる。

現在の状態で異常な所見はどれか。

1. 陣痛間欠 3 分
2. 陣痛発作 45 秒
3. 変動一過性徐脈
4. 胎児心拍数 150 bpm
5. 矢状縫合が横径に一致

次の文を読み 53、54 の問いに答えよ。

A さん(38 歳、1 回経産婦)。現在、パートナーと 8 歳の子もとの 3 人暮らし。33 歳から IgA 腎症のため大学病院の腎臓内科に通院中で、病状の進行による腎機能の悪化のため人工透析の導入が予定された。高血圧症に対して内服薬による治療が開始されたが、血圧のコントロールは不良である。

53 A さんは、月経が遅れていたため、市販の妊娠検査薬で検査して陽性であり産婦人科を受診した。経膈超音波検査で子宮内に胎嚢が確認され、胎児の頭殿長〈CRL〉は 20 mm であった。医師の診察の後、A さんは助産師に「まさか妊娠するとは思っていませんでした。主治医から今の状態での妊娠継続は難しいと言われてます。パートナーには秘密で中絶したいと思っています」と話した。

A さんの話を傾聴した後の説明で適切なのはどれか。

1. 「パートナーとよく話し合しましょう」
2. 「人工妊娠中絶には、分娩誘発が必要です」
3. 「高血圧症の治療を中止すれば妊娠継続が可能です」
4. 「1 週間以内に、中絶を行うかどうかの決断が必要です」
5. 「人工妊娠中絶の同意書は、医療者の前で署名してください」

54 1 週後、A さんが再度来院し「主治医にもう一度相談しましたが、やはり妊娠継続は勧められないと言われました。私も覚悟はしたつもりですが、簡単には決められません」と話して、うつむいた。

A さんの意思決定を支援する方法として適切なのはどれか。

1. バズ・セッション
2. ネゴシエーション
3. ピアカウンセリング
4. ブレインストーミング
5. 治療的コミュニケーション

次の文を読み 55 の問いに答えよ。

A さん(65 歳、女性)。3 回経妊 3 回経産婦。3 回の分娩は経膈分娩であった。52 歳で閉経。膈炎のため婦人科に通院している。外来の助産師に「以前から尿は近いほうだった。1 年くらい前からは夜間に 2、3 回トイレに起きるようになり、熟睡できない。最近では、日中も頻繁に尿意を感じるようになり、1～2 時間ごとにトイレに行っているが少量しか尿が出ない。1 か月後に友人と旅行することを楽しみにしていたが、旅行をあきらめようか迷っている」と相談した。咳をしたときや立ち上がったときの尿漏れはなく、長時間立っていても内臓が下がってくるような感じはない。A さんは 3 か月前に子宮がん検診を受けており、特に問題はなかったという。

**既往歴** : 60 歳から高血圧症に対して降圧薬を内服している。

**生活歴** : 3 人の娘が独立してからは、夫と 2 人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は週に 1 回缶ビール 1 本程度。

**家族歴** : 実母が糖尿病。

**身体所見** : 身長 155 cm、体重 60 kg。血圧 130/80 mmHg。

55 相談された助産師の対応で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 家族以外の人とは一緒に旅行しないよう勧める。
2. 医師に手術治療について相談するよう勧める。
3. 医師に薬物治療について相談するよう勧める。
4. 夜間の水分摂取は控えるよう勧める。
5. 膀胱訓練を指導する。







